

【スポーツ】

「バルサの哲学伝えたい」 下部組織の元責任者、福岡のスクールへ

2014年10月6日 夕刊

サッカーのスペイン1部リーグの強豪、バルセロナの下部組織の責任者を長年務めたアントニオ・デラクルス氏が、福岡県飯塚市を拠点としたサッカースクールのヘッドコーチに就任することが決まった。本格的に開校するのは来年4月。「培ってきた哲学を伝えたい」と意気込み、日本サッカー界の課題についても持論を語った。

現役時代はバルセロナで、名将ミケルスから薫陶を受けたという。横浜フリューゲルスを吸収合併した「横浜F・マリノス」の監督を務めた経験を持つ。

「スペインに比べれば、日本のサッカー文化は未熟かもしれないが、横浜M時代にもすばらしい選手がたくさんいた」と述懐。一方、当時と比べて国外に活躍の場を求める日本人選手が増加していることに触れ「現在は国内のリーグのレベルが下がっているのかもしれない」と警鐘を鳴らした。

バルセロナ元監督のカルロス・レシャック氏(67)も年に数回来日して指導する。名称は「レシャック・アントニオフットボールアカデミー」。18歳以下の年代を中心に活動し、神村学園高(鹿児島)と提携して選手の学業との両立も図る。

常駐して指導に当たる予定のデラクルス氏は「サッカー哲学を持った選手を輩出することで、日本のサッカーを活性化することができると思う」と自信を見せた。

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.